

| 科目 | 週時数 |
|------|------|
| 国語総合 | 4 時間 |

| | | |
|--------------|--|---|
| 目標 | 人間尊重の精神を学び、人間探究を通して生きる喜びを味わう。 言語文化としての国語の持つ正しさ、美しさを理解する。 合理的思考力と的確な判断力を身に付け、表現力を育てて伝え合う力を養う。 難関大学突破を目指した応用的な問題の演習を通して、思考力や読解力、語彙力を養う。 | |
| 育てたい力 | 知識技能 | 論理的な文章を読むことで、書き手の考えやその展開の仕方を学ぶ。多様な文章から多くの言葉や表現等に接することで、語彙力を高める。 |
| | 思考判断表現 | 文学的な文章を読むことで、人間の生き方や表現の美しさについて学ぶ。各単元で学んだ内容をもとに自身の考えを深め、発表する機会を持つ。 |
| | 主体性協働性多様性 | 多様な文章を読むことで、自分の興味、関心を広げ、関連する作品へと読書の範囲を広げる契機とする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|---|
| 1 学期 | 【現代文】教科書所載教材 ・技術が道徳を代行する時～・時間と自由の関係について 【古典】教科書所載教材 | ・評論を読み、本文の内容を的確に理解する。技術と人間の関係、日本と西洋の文化について理解する。 ・小説に描かれた情景などを表現に即して読み味わう。 ・評論に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 ・古典は高1の7月進研模試の出題範囲を照準とする。 |
| 2 学期 | 【現代文】教科書所載教材 ・城の崎にて～・映像文化の変貌 【古典】教科書所載教材 | ・小説に描かれた出来事や登場人物の心情などを、表現に即して読み取る。 ・文章の構成や展開に注意して評論を読み、筆者の意図を捉え自ら考える態度を養う。 ・言語と文化、広告、生物多様性について、自分の考えを深める。 ・古典は高1の11月進研模試の出題範囲を照準とする。 |

| | |
|--------------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 |
| 教科書 | 『国語総合 現代文編』(東京書籍) 『国語総合 古典編』(東京書籍) |
| 副教材 | 新訂国語総覧(京都書房) 新日本文学史(京都書房) 新訂国語総覧(京都書房) これからの古典文法(尚文出版) 漢文必携(京都書房) 流れと演習 新日本文学史(京都書房) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 調べ学習を取り入れる |

| | |
|-------------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|---------------------|-----|--------------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 各教材の学習の手引について自分の視点で論じられる |
| | 60% | 教科書の練習問題の完全理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|------|------|
| 世界史A | 2 時間 |

| | | |
|-------------------|-------------------|--|
| 育 て たい 力 | 知識 技能 | 近現代史の諸事象についての基本的知識を理解する。またそれぞれの事象を関連付けて考察する技能を身につける。 |
| | 思考 判断 表現 | 近現代史の諸事象から課題を見出し、それを多角的に考察する。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 近現代史を通して国際社会の諸事象に対する関心や課題意識を高め、それを意欲的に考察するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を持ち責任を果たそうとする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|-------------|---|--|
| 1 学 期 | 第1章 諸地域世界の特質 第2章 アジア諸国の繁栄 第3章 世界の一体化とヨーロッパ 第4章 近代の欧米社会 | 近現代史を理解する前提として、ユーラシアの諸文明の特質に触れるとともに、16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に、世界が一体化に向かう過程を理解する。その際、世界の動向と日本とのかかわりに着目する。 |
| 2 学 期 | 第5章 ヨーロッパの進出とアジア 第6章 帝国主義とアジアの民族運動 第7章 二つの世界大戦 第8章 冷戦の時代 第9章 グローバル化する世界 | 地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解し、人類の課題について歴史的観点から考察する。その際、世界の動向と日本とのかかわりに着目する。 |

| | |
|-------|------------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 |
| 教科書 | 『現代の世界史 改訂版』(山川出版社) |
| 副教材 | アカデミア世界史(浜島書店), 新世界史A要点ノート(啓隆社) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(復習テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 調べ学習を随時取り入れる |

| | | |
|------------------|-------|--|
| 到 達 目 標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|------------------|-----|-------------------------|
| 知識・技能分野 の到達目安 | 80% | 教科書の重要語句の関連性を系統立てて理解できる |
| | 60% | 教科書の重要語句を理解できる |

※80%=80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|------|------|
| 日本史A | 2 時間 |

| | | |
|----|---|--|
| 目標 | 近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察することによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 | |
| | 知識技能 | 近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事項を世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解する。 |
| | 思考判断表現 | 近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見つけ、多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。 |
| | 主体性協働性多様性 | 近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心を高め、主体的に追究することを通して、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|---|
| 1 学期 | 近代史を学ぶ前に 序編 私達の時代と歴史 第1編 近代の日本と世界 第1章 国際環境の変化と幕藩体制の動揺 第2章 明治維新と近代国家の成立 第3章 立憲政体の成立と国際的地位の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国のアジア進出の背景となる19世紀の国際情勢に着目し、幕藩体制動揺期の歴史的展開について理解する。 ・維新期の近代化について、諸改革の内容を理解するとともに、立憲体制の確立に努めた国内外の情勢にも着目する。 ・日本が帝国主義列強の一員として国際政局に登場した概要を理解する。 |
| 2 学期 | 第2編 大戦期の世界と日本 第1章 第一次世界大戦と日本 第2章 第二次世界大戦と日本 第3編 戦後政治の動向と国際社会 第1章 戦後政治の動向と国際社会 第2章 経済の発展と国民生活の変化 第3章 現代の日本と世界 | <ul style="list-style-type: none"> ・二度の世界大戦へと進む状況を理解する。 ・戦後占領期の民主化政策と独立回復の動きを考える。 ・独立後、経済・文化国家としての道を歩み、1960年代に高度経済成長を達成する日本の復興を世界的な視野から理解する。 ・経済大国として成長する日本の様子と、冷戦終結以降の新しい情勢のもとで流動する現代の情勢を分析する。 |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『高等学校 日本史A 最新版』(清水書院) |
| 副教材 | なし |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|-------------------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 時期の特色、教科書の語句、事項の因果関係、史資料の完全理解 |
| | 60% | 時期の特色、教科書の語句、事項の因果関係、史資料の理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|-----|-------|
| 地理A | 2 時間 |

| | | |
|-----|---|--|
| 目 標 | 系統的 content について、世界の様々な地域の特徴や共通点を結びつけて学習する。 自然環境について学習し、世界各地と日本における自然環境の差異や、それに伴う生活の違いを理解する。 産業に関する内容を学習することにより、世界の様々な地域の特徴や共通点を理解する。 | |
| | 知識 技能 | 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や、その追究の方法を理解し、知識を身につける。 |
| | 思考 判断 表現 | 現代世界の地理的事象から課題を見だし、地域性をふまえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化について考察する。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 世界の様々な地域の特徴を学び、現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | 第1部 現代世界の特徴と世界の諸地域の課題 1章 旅からとらえる現代世界 2章 世界の自然環境と文化 3章 世界の諸地域の生活・文化 1節 中国～7節 ヨーロッパ | <ul style="list-style-type: none"> 世界の大地形の分布、火山・地震などの活動地域の分布には特徴があること、人の生活との関わりについて世界地図を見ながら整理する。 それぞれの気候条件に対する植生・土壌について整理し、地球上の人々の生活は多様だが、その生活や各地の気候条件に対応していることを示す。 東南アジアを、位置・自然・農牧業・貿易・資源等を通して学び、ASEANの結成と拡大をもとに東南アジア地域の経済発展を考察する。 |
| 2 学 期 | 3章 世界の諸地域の生活・文化 8節 ロシア～11節 オセアニア 4章 地球規模で広がる課題 第2部 身近な地域の課題 1章 身近にあるさまざまな地図 2章 日本の自然環境と防災 3章 身近な地域の課題と地域調査 | <ul style="list-style-type: none"> アフリカを、位置・自然・農牧業・資源・貿易等を通して学び、アフリカで発生している多くの問題の多くは、植民地分割が原因になっていることを理解する。 南アメリカを、位置・自然・農牧業・資源・貿易等を通して学び、著しい経済発展と今後の課題について考察する。 今後の技術発展によって、より高度な情報を地図上で表現できる可能性を模索し、有効な活用方法について考察する。 |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 |
| 教科書 | 『高校生の地理A』(帝国書院) 『地歴高等地図』(帝国書院) |
| 副教材 | 最新地理図表 GEO(第一学習社) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 調べ学習を取り入れる |

| | | |
|----------|-------|--|
| 到達 目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|------------------|-----|-----------------------------|
| 知識・技能分野 の到達目安 | 80% | 教科書の語句、事象の因果関係、資料等の理解を説明できる |
| | 60% | 教科書の語句、事象の因果関係、資料等の理解 |

※80%＝80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|------|------|
| 現代社会 | 2 時間 |

| | | |
|-----|---|--|
| 目 標 | 現代社会の諸問題について、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究し、時事的な問題と関連させながら、現代社会に対する興味・関心を高める。そして、多様な角度から理解するとともに、現代社会と自己とのかかわりに着目し、いかに生きるかを主体的に考える。 | |
| | 知識技能 | 現代社会の政治、経済、社会、国際関係、人間としての在り方生き方にかかわる基本的な課題や事柄について理解することができる。 |
| | 思考判断表現 | 現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄から課題を見いだし、広い視野から多面的、多角的に考察することができる。 |
| | 主体性協働性多様性 | 現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、情報が適切かどうかを判断することができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|---|
| 1 学期 | 第1部 わたしたちの生きる社会 第2部 現代社会と人間 第1章 青年期と自己形成の課題 第2章 日本国憲法と民主政治 | <ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題、資源エネルギー問題について多面的に理解し、持続可能な開発に向けた課題について考察する。 欲求と適応行動の関係について理解し、青年期におけるパーソナリティの形成やボランティアなどの社会との関わりの意義について考察する。 宗教の意味について知るとともに、三大世界の仏教、キリスト教、イスラム教の人間観や教えについて理解する。 基本的人権と法の支配の意義、自由権から社会権へ向かう人権の歴史的展開、人権保障の展開について理解する。 日本国憲法に定める平和主義の内容を確認し、日本の防衛と自衛隊のかかわり、安全保障に関する日本とアメリカの関係などについて考察する。 |
| | 第3章 個人の尊重と法の支配 第4章 現代の経済と国民福祉 第5章 国際社会と人類の課題 第3部 ともに生きる社会をめざして | <ul style="list-style-type: none"> 経済主体の企業の役割、企業の活動、株式会社の特色、国際化に伴う変化、企業の社会的責任について理解する。 市場経済の限界を補う意味を持つ政府の経済的な活動について理解すると同時に、財政制度、租税と公債、財政問題について考察する。 社会保障の意義と制度の歴史、日本の社会保障制度の概略について理解し、少子高齢社会における社会保障制度の在り方について考察する。 人種や国籍、宗教などによる差別問題、人権を抑圧する政治体制、人権保障のための活動、人権保障に関する国際的な仕組みや取り組みについて理解する。 |

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『現代社会』(東京書籍) |
| 副教材 | 政治・経済(数研出版), 政治・経済資料集(清水書院), 倫理(東京書籍) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | ICTの活用, アクティブラーニングを取り入れる |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|------------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 教科書の語句、事項の因果関係、資料の完全理解 |
| | 60% | 教科書の語句、事項の因果関係、資料の理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|----------|------|
| 数学Ⅰ, 数学Ⅱ | 4 時間 |

| | | |
|----|---|--|
| 目標 | 数と式, 集合と命題, 図形と計量, 2次関数, データの分析, 方程式と証明について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを積極的に活用する態度および応用力を養成する。 | |
| | 知識技能 | 数学的活動を通して, 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形と計量, データの分析, 方程式と証明における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し, 処理する仕方や推論の技能を身につけ, 的確に問題を解決できる。 |
| | 思考判断表現 | 数学的活動を通して, 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形と計量, データの分析, 方程式と証明における数学的な見方や考え方を身につけ, 事象を数学的に捉え, 論理的に考察し表現できる。 |
| | 主体性協働性多様性 | 自ら課題を見だし, 解決するための構想を立て, 考察・処理し, その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし, ICTを活用し, 説明したり, 議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け, 具体的な事象の考察に活用することができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|--|
| 1 学期 | 【数学Ⅰ】 ○数と式 ○集合と論証 ○2次関数 | ○整式の加法・減法・乗法, 因数分解ができる。 ○実数の分類, 絶対値を理解し, 根号を含む式の計算ができる。 ○不等式とその性質を理解し, (連立)一次不等式が解ける。 ○集合について理解できる。命題と条件について理解できる。 ○2次関数とそのグラフについて理解し, 最大値や最小値を求めたり, 2次方程式や2次不等式に応用することができる。 |
| 2 学期 | ○図形と計量 ○データの分析 【数学Ⅱ】 ○方程式と証明 | ○三角比の意味やその性質について理解し, 三角形や四角形, 空間図形等に応用できる。 ○統計の基本的な考えを理解するとともに, それを用いてデータを整理, 分析し傾向を把握する。 ○整式の乗法, 除法及び分数式の計算ができる。 ○複素数について理解し, 2次方程式を複素数の範囲で解くことができる。因数定理を使って高次方程式を解くことができる。 ○恒等式について理解し, 等式や不等式の証明ができる。 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業, グループ学習 |
| 教科書 | 『数学Ⅰ』(東書 数Ⅰ 301), 『数学Ⅱ』(東書 数Ⅱ 301) |
| 副教材 | ニュースコープ数学Ⅰ+A(東書), ニュースコープ数学Ⅱ+B(東書), サンドイダル学習ノート データの分析(啓林館) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 課題学習を行い, ICTを活用した発表などの活動を取り入れる |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|---------------------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 教科書の問題・練習問題Aの完全理解 |
| | 60% | 教科書の例題・問, 副教材「ニュースコープ」のA問題の完全理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|-----|-------|
| 数学A | 2 時間 |

| | | |
|------------------|---|--|
| 目 標 | 場合の数と確率、整数の性質、図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを積極的に活用する態度および応用力を養成する。 | |
| 育 っ た い 力 | 知識技能 | 数学的活動を通して、場合の数と確率、整数の性質、図形の性質における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。 |
| | 思考判断表現 | 数学的活動を通して、場合の数と確率、整数の性質、図形の性質における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察し表現できる。 |
| | 主体性協働性多様性 | 自ら課題を見いだし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|------------------|--|
| 1 学期 | ○場合の数と確率 | ○集合の要素の個数と順列、組合せの意味を理解し、その計算ができる。 ○事象と確率、確率の基本性質を理解し、その計算ができる。 ○独立試行、反復試行、条件付き確率を学び、具体的な事象を数学的に考察できる。 |
| 2 学期 | ○整数の性質 ○図形の性質 | ○整数の性質と整数の分類について理解できる。 ○ユークリッドの互除法を理解し、それを用いて2つの整数の最大公約数を求める。 ○2元1次不定方程式の解の意味を理解し、解を求める。 ○2進法や3進法について理解できる。 ○三角形の比の定理について理解し、活用できる。 ○円の性質、定理について理解し、活用できる。 ○基本的な作図、長さの作図ができる。 ○空間図形の基本性質を理解し、応用できる。 |

| | |
|--------------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業, グループ学習 |
| 教科書 | 『数学A』(東書 数A 301) |
| 副教材 | ニュースコープ 数学 I +A(東書), サンダイヤル学習ノート 図形の性質(啓林館) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 課題学習を行い, ICTを活用した発表などの活動を取り入れる |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|---------------------|-----|---------------------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 教科書の問題・練習問題Aの完全理解 |
| | 60% | 教科書の例題・問, 副教材「ニュースコープ」のA問題の完全理解 |

※80%＝80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|------|------|
| 物理基礎 | 2 時間 |

| | | |
|----|---|--|
| 目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 | |
| | 知識技能 | 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めることで、生徒自らが課題を見付け、考え、見直しをもって主体的かつ意欲的に観察、実験などに取り組む。 |
| | 思考判断表現 | 物理基礎の学習で学んだ事柄が、他の自然科学の基礎を担うとともに、日常生活や社会を支える科学技術と結び付いており、科学が大きく発達した現代社会において、環境保全に配慮しつつ安全かつ快適に生活するために欠かせないものであることを、実感をもって理解する。 |
| | 主体性協働性多様性 | 身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を育てようとする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|--|
| 1 学期 | 第1編 物体の運動とエネルギー (様々な力、力のつり合い、運動の法則、落下運動) | <ul style="list-style-type: none"> ・日常に起こる物体の運動を観察、実験などを通して、力学の基本的な概念や法則を理解する。 ・定期試験では、発展的な内容を出題し、理解を深める。 ・日常に起こる物体の運動を観察、実験などを通して、運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身に付ける。 |
| | 第1編 物体の運動とエネルギー (仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存) | |
| 2 学期 | 第2編 さまざまな物理現象とエネルギー (熱、波、エネルギーとその利用) | <ul style="list-style-type: none"> ・物理基礎で扱う内容の完全な理解を目標とする。 ・定期試験では、発展的な内容を出題し、理解を深める。 |
| | 第2編 さまざまな物理現象とエネルギー (物質と電気抵抗、電気の利用) | |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 |
| 教科書 | 『新編 物理基礎』(東京書籍) |
| 副教材 | ステップアップノート物理基礎(啓林館) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|--|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 「ステップアップノート物理基礎」のStep3の理解 |
| | 60% | 「ステップアップノート物理基礎」のStep2及び『物理のStairs』(問題プリント群)の表面の理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|------|-------|
| 生物基礎 | 2 時間 |

| | | |
|-----|---|--|
| 目 標 | 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高める。目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 | |
| | 知識 技能 | 観察、実験を行い、基本操作ができる。それらの過程や結果を的確に記録、整理することができる。自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解することができる。 |
| | 思考 判断 表現 | 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとすることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|-------------|---|---|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性と共通性 ・細胞とエネルギー ・遺伝現象と遺伝子 ・遺伝情報とタンパク質の合成 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究する。 ・細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付ける。 |
| 2 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・体液とそのはたらき ・生体防御 ・自律神経系とホルモン ・生物多様性とバイオーム | <ul style="list-style-type: none"> ・生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探究する。 ・生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。 ・生物の多様性と生態系について観察、実験などを通して探究する。 ・生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。 |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 |
| 教科書 | 『高等学校生物基礎』(第一学習社) |
| 副教材 | セミナー生物基礎(第一学習社) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 実験・観察を取り入れる |

| | | |
|--------------|-------|--|
| 到達 目 標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|------------------|-----|-------------------------|
| 知識・技能分野 の到達目安 | 80% | 「セミナー生物基礎」の基本問題と発展問題の理解 |
| | 60% | 「セミナー生物基礎」の基本問題の理解 |

※80%＝80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|-----|-------|
| 体育 | 2 時間 |

| | | |
|-------------------|--|---|
| 目 標 | 各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。 | |
| 育 っ て たい 力 | 知識技能 | 社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。 |
| | 思考判断表現 | 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。 |
| | 主体性協働性多様性 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|--|
| 1 学期 | 体づくり運動 *組体操、運動会の練習 体育理論 器械運動(マット) バレーボール ソフトボール | <ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 ・様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 |
| 2 学期 | 体育理論 卓球 バドミントン バスケットボール サッカー | <ul style="list-style-type: none"> ・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 |

| | |
|--------------|-----------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 |
| 教科書 | 『高等学校保健体育』(第一学習社) |
| 副教材 | ステップアップ高校スポーツ2019(大修館) |
| 評価の方法 | 実技試験と定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|-------------|--------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②実技テスト | 競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| 科 目 | 週 時 数 |
|-----|-------|
| 保健 | 1 時間 |

| | | |
|------------------|--|--|
| 目 標 | 心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てる。 現代社会と健康についての課題解決に役立つ知識を身につけ、適切な意思決定と行動選択できる力を育て健康的なライフスタイルを身につける。 | |
| 育 っ た い 力 | 知識技能 | 個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につける。 |
| | 思考判断表現 | 個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断する力を育てる。 |
| | 主体性協働性多様性 | 個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、生涯にわたって自らの健康を適切に管理する方法などについて意欲的に取り組む。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|---|
| 1 学期 | 第1章【現代社会と健康】 第1節 健康の考え方と成り立ち 第2節 健康の増進と病気の予防 | <ul style="list-style-type: none"> 健康とはどのような状態にあるかについて理解し、わが国の健康水準や病気の傾向の変遷について理解する。健康の保持・増進のために必要な環境づくりについて考える。 生活習慣病とはどのような病気か、また何が原因で発症するのかを理解する。食事・運動・休養が健康に及ぼす影響、喫煙・飲酒・薬物が健康に及ぼす悪影響についてそれぞれ理解を深める。 |
| 2 学期 | 第1章【現代社会と健康】 第3節 精神の健康 第4節 交通安全 第5節 応急手当 | <ul style="list-style-type: none"> 脳の各部の名称や働き、また自律神経やホルモンによるからだの調節機能について理解すると同時に、心とのかかわり、ストレスの対処法についての理解を深める。 交通事故の現状や原因について理解を深め、安全の意識を高め、交通社会の一員としての自覚を持ち、一人ひとりの問題として考え行動できるようにする。 応急手当、心肺蘇生法について理解し学び、実習を通して方法をしっかりと身につけ実践できるようにする。 |

| | |
|--------------|----------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 |
| 教科書 | 『高等学校保健体育』(第一学習社) |
| 副教材 | 保健体育ノート(第一学習社) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(課題の内容・提出状況、授業態度)による総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| 科 目 | 週 時 数 |
|------|-------|
| 音楽 I | 2 時間 |

| | | |
|-----------------|---|--|
| 目 標 | 音楽の幅広い活動を通して芸術的な能力を伸ばし、生涯にわたって芸術を愛好する態度を育てるとともに、感性を高め、豊かな情操を養う。 | |
| 育 っ たい 力 | 知識 技能 | 基本的な発声、奏法ができる力。 基本的な楽譜の読み書きができる力。 |
| | 思考 判断 表現 | 基本的な知識、技能を使って表現する力。 様々な音楽の特徴の違いを聴き分ける力。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | ペアやグループの仲間と学びあう力。 グループやクラスで協力して表現する力。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現(歌唱) 「校歌」、「イタリア歌曲」、「宗教音楽」 ・鑑賞(西洋音楽史/劇音楽) 「古代」、「中世」、「ルネサンス」、「バロック」 /「ミュージカル」 ・楽典 音程、和音 ・創作 和音構成音によるメロディーの作曲 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌う姿勢や基本的な発声法を身につけ、斉唱で表現できる。 ・外国語の歌曲や宗教曲を通して、言葉と音楽の関係を理解し、西洋音楽の真髄に触れる。 ・西洋音楽史の流れを把握し、音楽の成り立ちと変遷を理解する。 ・メロディーの作曲に必要な知識を理解する。 ・身に付けた読譜、記譜能力を使って自ら創作する。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現(歌唱) 「ドイツ歌曲」、「宗教音楽」 ・表現(器楽) 「箏」(基本奏法、六段の調べ) ・鑑賞(西洋音楽史/ポピュラー音楽) 「古典派」「ロマン派」「近・現代」/「ポピュラー」 ・創作 非和声音を含むメロディーの作曲 箏による自由な発想の作品の作曲と演奏 | <ul style="list-style-type: none"> ・オラトリオやカンタータなどの宗教作品における聖書と音楽について理解し、表現することができる。 ・日本伝統音楽の楽器に触れ、基本的な技能を身につける。 ・西洋音楽史の流れを踏まえ、ポピュラー音楽の変遷を理解し、興味・関心を持って鑑賞する。 ・身に付けた読譜、記譜能力を使って自ら創作する。 |

| | |
|--------------|---------------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『音楽 I Tutti』(教育出版) |
| 副教材 | 教師作成のプリント、教師作成の復習プリント |
| 評価の方法 | 定期試験、実技試験、平常点(ワークシート、ノート、感想文、復習プリント等) |
| 備考 | chromebookの使用(小テスト、感想文、アンケート等) |

| | | |
|-------------|--------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②実技テスト | 表現の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|---------------------|-----|-----------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 教師作成の復習プリントの完全理解 |
| | 60% | 教師作成のプリント、ワークシートの完全記入 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|---------------|-------|
| コミュニケーション英語 I | 4 時間 |

| | | |
|------------------|--|--|
| 目 標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 | |
| 育 っ た い 力 | 知識技能 | 簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 日常生活の話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 短い内容や会話を聞いて、話者の意図や内容の状況を理解できる。 |
| | 思考判断表現 | 1つの段落内の要点や内容のつながりを理解できる。 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 自分の意見や感想を整理し、文章構成を意識して書くことができる。 |
| | 主体性協働性多様性 | 日常生活で簡単な用を足したり、興味のあることについて考えを述べるができる。 自分のスピーチに対する質問に英語で答えることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> •What Can Blood Type Tell Us? •Curry Travels around the World •School Uniforms •Encyclopedia Brown •Gorillas and Humans •"gr8 or great?" •Biodiesel Adventure | 以下の事項を理解し、活用できるようになる。 ・動名詞, 不定詞 ・分詞の後置修飾, 現在完了形 ・関係代名詞, S+V+疑問詞節/S+V+O+疑問詞節 ・seemの用法, 現在完了進行形 ・It~thatの形式主語構文 ・知覚動詞+O+動詞の原形 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> •Eco-tour on Yakushima •The Happy Prince •Mariko Nagai, Super Interpreter •Space Elevator •Friendship over Time •The Freedom Writers Diary | 以下の事項を理解し、活用できるようになる。 ・前置詞+関係代名詞, 関係副詞 ・関係代名詞what, 分詞構文 ・仮定法過去, 倍数表現 ・関係代名詞の非限定用法 ・仮定法過去完了 |

| | |
|--------------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『Revised Landmark English Communication I』(啓林館) |
| 副教材 | Revised Landmark English Communication I 予習ノート(啓林館) Vision Quest総合英語2nd Edition (啓林館) 夢をかなえる英単語新ユメタン1(アルク) |
| 評価の方法 | 定期試験・スピーキングテスト・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|---------------------|-----|-----------------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 教科書の各課末の問題・副教材の全ての問題を完全理解する |
| | 60% | 教科書の各課末の問題を完全理解する |

※80%=80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|--------|------|
| 英語表現 I | 2 時間 |

| | | |
|----|---|--|
| 目標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 | |
| | 知識技能 | 簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 日常生活の話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 短い内容や会話を聞いて、話者の意図や内容の状況を理解できる。 |
| | 思考判断表現 | 1つの段落内の要点や内容のつながりを理解できる。 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 自分の意見や感想を整理し、文章構成を意識して書くことができる。 |
| | 主体性協働性多様性 | 日常生活で簡単な用を足したり、興味のあることについて考えを述べるができる。 自分のスピーチに対する質問に英語で答えることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> •Let's have lunch together sometime. •Are you interested in Japanese anime? •I'm going to Okinawa with my family. •I hear you've joined the soccer team. •Can you tell me what ammitsu is like? •I'm so glad I can see the Sydney Opera House. | 以下の事項を理解し、活用できるようになる。 ・文の種類 ・文型と動詞 ・時制 ・完了形 ・助動詞 ・受動態 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> •It's very nice of you to say so. •How about going to see a musical? •I'm for school uniforms. •How do you spend Christmas? •Did you watch the debate on TV last night? •I wish my parents were more understanding. | 以下の事項を理解し、活用できるようになる。 ・不定詞 ・動名詞 ・分詞 ・関係詞 ・比較 ・仮定法 |

| | |
|-------|--|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『Revised Vision Quest English Expression I Standard』(啓林館) |
| 副教材 | Revised Vision Quest English Expression I Standard WORKBOOK (啓林館) Vision Quest総合英語2nd Edition (啓林館) NextStage 英文法・語法問題 4th Edition(桐原書店) |
| 評価の方法 | 定期試験・スピーキングテスト・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|--|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 教科書のExercises・WORKBOOKのPractice問題の完全理解 |
| | 60% | 教科書のExercises問題をすべて解くことができる |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|------|-------|
| 家庭基礎 | 2 時間 |

| | | |
|------------------|--|--|
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族・家庭, 福祉, 消費生活, 衣食住に関する知識と技術を総合的に習得する。 ・学習した知識や技術を活かし, 家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を身につける。 ・生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 | |
| 育 っ た い 力 | 知識技能 | 生活を営むために必要な, 衣食住, 家族, 保育, 消費, 環境などに関する知識と技術を身につける。 |
| | 思考判断表現 | 人の一生という時間の経過の中で, 生活の営みに必要な人間関係, 衣食住, 消費などの生活活動に関わる事柄を相互に関連して理解し, 自らの生活を自立的に営む実践的な態度を育てる。 |
| | 主体性協働性多様性 | 共に支えあう社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身につけ, 家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・人の一生と家族 ・家族・家庭についての法律 ・保育 ・子どものくらしと親のかかわり ・高齢者・共生社会 ・高齢者の福祉を考える ・消費生活 ・家計から生活を考える | <ul style="list-style-type: none"> ・家族家庭の意義を理解し, 家族の一員としての意識をもつ。 ・子どもの発達・保育・福祉を通して, 健全な発達を支える親や社会の役割を理解する。 ・高齢者を正しく認識し, 介護の基礎を学ぶ。 ・家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得し, 消費者として責任をもって行動できるようにする。 ・「契約の重要性、及び消費者保護の仕組みに関する規定」について理解する。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・食生活について考える ・栄養と食品 ・衣生活について考える ・衣服の選択と手入れ ・住生活について考える ・住空間を計画する ・環境について考える ・持続可能な社会を目指して | <ul style="list-style-type: none"> ・栄養, 食品, 調理, 食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・衣服の機能や着装, 材料などの基礎的な知識と技術を習得する。 ・住居の機能, 住生活と健康, 安全などに関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・現代の消費生活と環境の関わりを理解する。 ・家庭科の学習から課題を見つけ, 生活に活かす。 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『家庭基礎 自立・共生・創造』(東京書籍) |
| 副教材 | 家庭基礎学習ノート(東京書籍) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(学習状況, 提出物, 授業態度, 作品評価等)による総合評価 |
| 備考 | PC(chromebook)を使用して調べ学習等を行う |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え, 中間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| 科目 | 週時数 |
|-------|------|
| 社会と情報 | 2 時間 |

| | | |
|----|---|--|
| 目標 | 情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解し、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。また、メディアの特性を踏まえ、情報を適切に収集・処理し、信憑性を判断したうえで、責任をもって発信する力を身につける。 | |
| | 知識技能 | 情報機器や情報通信ネットワークを適切に活用する知識を身につけるとともに、情報および情報技術の社会的意義や役割について理解している。 |
| | 思考判断表現 | 収集・分析した情報をもとに論理的に思考することができ、情報の受発信時においても、情報モラルの観点から適切に判断することができる。 |
| | 主体性協働性多様性 | 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響や課題について関心をもち、他者を尊重し情報社会の一員として積極的に参画する態度を身につけている。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|--|
| 1 学期 | 本校システムの利用方法について ・機器とID、パスワード管理基本操作の確認 ・プログラム作成と応用 ・スクイークでプログラム実習、レゴロボ実習 ・第1章「情報の活用と表現」について調べ学習 ・コンピュータグラフィクス実習(CGの基本操作) ・第2章「情報通信ネットワークとコミュニケーション」について調べ学習 | ・IDパスワードの管理、ネットワークシステムの利用方法について学び、自己管理ができるようにする。 ・基本操作の確認としてワープロ実習でレポートの作成ができるようにする。 ・コンピュータ上でプログラムの基本操作を学び、応用能力を育てる。 ・報告書形式による教科書の内容を自分自信に役立つようにまとめる。 ・CGのレイヤー・オブジェクト・シェイプなどの理解とポスターの作成を行う。 |
| 2 学期 | ・プレゼンテーションについて ・PowerPoint 4コマ紙芝居 ・第3章「望ましい情報社会を構築するために」について調べ学習 ・音楽ソフト sakura の実習(自由曲作成) ・3DCG(3次元グラフィクス)実習 ・終章「情報社会と問題解決」について調べ学習 | ・音楽ソフトsakuraの基本操作とオンラインマニュアルの使い方を学び、応用力を養う。 ・3DCGの基本操作(ワイヤーフレーム・レンダリング等)について学び、3DCGによる作品作成を通して実践力を養う。 ・プレゼンテーションの基本操作を学び、情報発信ができるようにする。 ・報告書形式による教科書の内容を自分自信に役立つようにまとめる。 |

| | |
|-------|---------------------|
| 授業の形態 | PC一人1台環境による実習形式の授業 |
| 教科書 | 『新社会と情報』(日本文教出版) |
| 副教材 | 特になし |
| 評価の方法 | 定期試験および毎時間の実習による提出物 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| 科 目 | 週 時 数 |
|--------|-------|
| 聖書(設定) | 1 時間 |

| | | |
|------------------|--|--|
| 目 標 | 人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。 | |
| 育 っ た い 力 | 知識 技能 | 歴史的, 社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。 |
| | 思考 判断 表現 | 自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り, いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが, 同時に有意味である自己肯定感を促す。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 異なった考えを積極的に捉え, これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで, 全体の共同性を確認する。 |

| 時期 | 学 習 内 容 | ね ら い ・ 目 標 |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史性, 普遍性, 倫理性 ・創立の経緯 ・3L精神 ・建学の精神 ・新約聖書概論 ・日本の宗教とキリスト教 ・主の祈り ① ・主の祈り ② | <ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ, 必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び, 学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と, 学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と, 新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき, 神との関係性について知る。 ・本来あるべき, 隣人との関係性について知る。 |
| 2 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書と旧約聖書の関連 ・旧約聖書概論 ・十戒 ① ・十戒 ② ・教会暦 | <ul style="list-style-type: none"> ・時代の違い, ユダヤ教徒の関連を知る。 ・古代イスラエル史と共に, その豊かな知恵を知る。 ・本来あるべき神との関係性について知る。 ・本来あるべき隣人との関係性を知る。 ・一年を通じてキリストの生涯を意識しつつ生きる。 |

| | |
|--------------|------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 |
| 主たる教材 | 聖書 |
| 副教材 | なし |
| 評価の方法 | 定期試験, 提出物による総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| 科 目 | 週 時 数 |
|-------|-------|
| 3L希望学 | 1 時間 |

| | | |
|------------------|--|--|
| 目 標 | ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。 | |
| 育 っ た い 力 | 知識技能 | 世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。 |
| | 思考判断表現 | クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。 |
| | 主体性協働性多様性 | 誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|--|
| 1 学期 | 「職業研究」・「学問研究」・「進路研究」 「ESDに関する学習」 | 適性検査や外部講師の講話、オープンキャンパスへの参加や講義動画の視聴などを通して、自己の適性や興味関心についての理解を進め、学問分野や職業や進路や進学について学び、目標に向かってどのような道を進むか、そのために何が必要か、どのような準備をすればよいかに関して高校3年間とその後の学びの見通しを持つ。 貧困や環境破壊、紛争や人種差別など世界規模の課題について理解を深め、多角的な視点から現状を考察し、その解決の方向性について級友と協働して考える。また、「SDGs」の内容について知り、ESDに取り組む意義について理解する。 |
| 2 学期 | 「国際理解学習」 「学問研究」 | 貧困や環境破壊、紛争や人種差別など世界規模の課題とその解決に向けて設定された「SDGs」から1つを取り上げ、その解決に向けての取り組みを地域間で比較して背景を探り、そのトピックにうまく関わっている企業をの取り組みをまとめる。まとめはグループごとに発表し、ゲストティーチャーからフィードバックを貰う。現状の理解、仮説立案とその検証、課題解決の方法について考えることで探究のプロセスの理解を深める。 学びたい学問と学べる大学を探すイベントへの参加や講義動画を活用し、自分の興味関心に沿って将来果たすべき役割とその実現のためにたどるべき道筋について考える。 |

| | |
|--------------|--|
| 授業の形態 | 一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動 |
| 教科書 | なし |
| 副教材 | なし |
| 評価の方法 | 学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|-------------|-------|------------------------------------|
| 到達目標 | ①定期試験 | なし |
| | ②小テスト | なし |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする |